

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.169

2007年6月

台湾 亜東関係協会科学技術交流委員会が本学を訪問

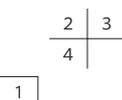
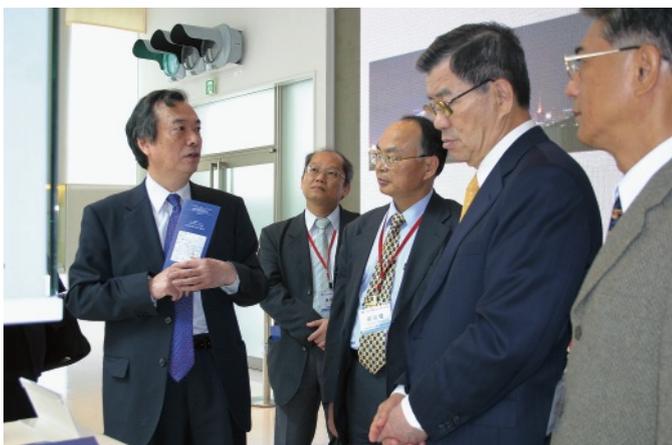


目次

●ニュース	
台湾 亜東関係協会科学技術交流委員会が本学を訪問	3
名誉教授称号授与式・懇談会を開催	4
平成19年春の叙勲・褒章受章者決まる	5
上村理学研究科教授と祖父江医学研究科教授が中日文化賞を受賞	5
岡崎高等学校とのスーパーサイエンス教育交流協定を締結	6
野依特別教授と李名誉博士を高等研究院名誉院長に任命	6
台湾 国立政治大学及び国立台湾大学と大学間学術交流協定を締結	7
安否情報登録訓練を実施	7
●教育のデザインとプラクティス	
全学教養科目「学問の面白さを知る」を開講	8
蔡 大鵬（高等研究院准教授）	
●知の未来へ	
ステレオタイプの研究視座を乗り越えて	10
李 正連（大学院教育発達科学研究科准教授）	
●職員から	
鶴舞キャンパス・職員ボランティア～花いっぱい同好会～	11
山口 正博（医学部・医学系研究科事務部経営企画課）	
●キャンパスクローズアップ	
理学部B館	12
●部局ニュース	
工学研究科結晶材料工学専攻30周年記念講演会を開催	14
「動物ふれあいコース in 名倉」を開催	14
博物館が「ボタニカルアート講座」を開講	15
●環境への取り組み	
実験室の環境を改善し研究者の健康を守る	16
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成19年4月16日～5月15日	17
●博物館からのお知らせ	
第11回名古屋大学博物館企画展「地球は玉手箱－誕生石の魅力－」	20
●イベントカレンダー	21
●ちょっと名大史	
第22回名大祭 —1980年代の名大祭—	24

台湾 亜東関係協会科学技術交流委員会が 本学を訪問





- 1 あいさつする宮田副総長
- 2 地雷探知機の説明を受ける一行
- 3 血管内治療用シミュレータ見学の様子
- 4 赤崎記念研究館展示室で説明をする竹田教授（左端）

台湾 亜東関係協会科学技術交流委員会の「デジタル家電及び関連部材産業訪日団」25名（中華経済研究院東京事務所3名を含む）が、4月25日（水）、本学を訪問しました。

同委員会は、2003年4月に日台間の科学技術における協力促進を目的として、台湾の対日本窓口機関である亜東関係協会内に設置され、現委員長は元行政院長（日本の元首相に相当）の蕭 萬長氏です。同委員会は、毎年2、3回、特定のテーマによる訪日団を結成し、関連機関や企業を訪問し、今回も蕭団長、蔡顧問（元科学技術担当特任大臣）をはじめ、産学官から成る団員で、デジタル家電及び関連デバイスに関する産業の理解・交流の促進と協

力体制の構築を目的として、4月23日から28日まで京都、名古屋、東京の各機関と企業を訪問しました。

当日平野総長は台湾訪問中のため、宮田副総長、井上工学研究科副研究科長、早川総長補佐が工学部会議室において応対、本学と工学研究科の概要と活動状況及び産学官連携について説明した後、蕭団長によるあいさつと団員紹介がありました。次いで、一行は工学部2号館において、福田敏男同研究科教授からナノテクノロジー等同研究室の研究内容について説明を受けた後、機械・航空実験棟で地雷探知機、血管内治療用シミュレータ等の見学を行いました。引き続き、赤崎記念研究館に移動し、竹田美和同研究科教授か

ら同館展示品について説明を受け、施設見学を終了しました。

訪日団は各分野の専門家で組織されているため、各見学先で大変熱心な質疑応答が交わされ、国際産学連携の推進に向け、実り多い訪問となりました。

名誉教授称号授与式・懇談会を開催

名誉教授称号授与式が、5月9日(水)、野依記念学術交流館カンファレンスホールにおいて挙行されました。

名誉教授の称号は、本学教授として7年以上勤務し、教育上または学術上特に功績のあった方に授与するもので、今回新たに44名(新制計945名)の先生方に授与されました。

式には、新名誉教授のうち30名が出席し、平野総長から一人ひとりに辞令書が授与され、永年にわたり本学の教育・研究の発展に多大なる貢献をしたことへのお礼とお祝いのごとばが述べられた後、新名誉教授を代表して北住炯一先生からあいさつがありました。

引き続き、同館会議室において、名誉教授懇談会が、約120名の参加を得て開催されました。懇談会は、新名誉教授、昨秋及び今春の叙勲受章者、役員・部局長等の紹介に続いて、総長からあいさつとこの一年の本学での動き等について報告がありました。その後、松尾 稔前総長の発声で乾杯が行われ、参加者は終始和やかな雰囲気の中で歓談しました。

今回、新たに名誉教授の称号が授与されたのは、次の方々です。

大学院文学研究科	竹内 弘行	大学院医学系研究科	森 尚義	大学院多元数理科学研究科	佐藤 肇
大学院文学研究科	宮 治 昭	大学院医学系研究科	山内 一信	大学院多元数理科学研究科	土屋 昭博
大学院教育発達科学研究科	蔭山 英順	医学部附属病院	鍋島 俊隆	大学院国際言語文化研究科	有川 貫太郎
大学院教育発達科学研究科	高木 靖文	大学院工学研究科	浅井 滋生	大学院国際言語文化研究科	近藤 健二
大学院教育発達科学研究科	村上 隆	大学院工学研究科	澤田 義博	大学院国際言語文化研究科	中嶋 忠宏
大学院法学研究科	石田 真	大学院工学研究科	菅井 秀郎	大学院環境学研究科	上田 豊
大学院法学研究科	加藤 雅信	大学院工学研究科	高村 秀一	大学院環境学研究科	安藤 雅孝
大学院法学研究科	北住 炯一	大学院工学研究科	田中 啓介	大学院環境学研究科	川崎 誠一
大学院理学研究科	加藤 潔	大学院工学研究科	野村 宏之	大学院環境学研究科	篠田 公穂
医学部保健学科	杉村 公也	大学院工学研究科	原口 紘丞	大学院環境学研究科	松本 英二
大学院医学系研究科	井口 昭久	大学院工学研究科	松井 正顯	大学院情報科学研究科	三井 斌友
大学院医学系研究科	菊池 韶彦	大学院工学研究科	三矢 保永	太陽地球環境研究所	上出 洋介
大学院医学系研究科	下方 薫	大学院生命農学研究科	平嶋 義彦	エコトピア科学研究所	伊藤 秀章
大学院医学系研究科	豊嶋 英明	大学院国際開発研究科	江崎 光男	アイソトープ総合センター	西澤 邦秀
大学院医学系研究科	二村 雄次	大学院国際開発研究科	安田 信之		(敬称略)



授与式の様子



集合写真

平成19年春の叙勲・褒章受章者決まる

－ 本学関係者9名が喜びの受章 －

平成19年春の叙勲及び褒章受章者の発表があり、本学関係者では次の方々を受章され、現職教員では、福井康雄理学研究科教授が、紫綬褒章を受章されました。

【叙勲】

【教育研究功労 関係】

瑞宝重光章

飛田 武幸

名誉教授（理学部）

元理学部長

元名城大学教授

瑞宝中綬章

島津 康男

名誉教授（理学部）

元東邦学園短期大学長

瑞宝中綬章

松岡 理

名誉教授（工学部）

元中部大学教授

瑞宝中綬章

堀 高夫

名誉教授（農学部）

瑞宝中綬章

山本 幸男

名誉教授（農学部）

元名古屋学院大学教授

【保健衛生・看護功労 関係】

瑞宝双光章

早川 紀和

元医学部附属病院

放射線部

副診療放射線技師長

瑞宝単光章

田口 昭子

元医学部附属病院

看護部看護師長

【文部行政事務功労 関係】

瑞宝双光章

佐竹 健吾

元工学部事務部長

【褒章】

紫綬褒章

福井 康雄

大学院理学研究科教授

上村理学研究科教授と祖父江医学系研究科教授が中日文化賞を受賞

上村大輔理学研究科教授と祖父江^{げん}元医学系研究科教授が、第60回中日文化賞を受賞しました。

本賞は、中日新聞社が、優れた文化的業績をあげた中部地区の個人及び団体に贈るものです。

上村教授の受賞は、「海洋天然物の生物有機化学的研究」で、特に、クロイツカイメン由来の「抗腫瘍物質ハリコンドリンB」とイワスナギンチャクが持つ「猛毒パリトキシン」という有機化合物を発見し、その分子構造を解明したことによるものです。受賞に際し、同教授は、「自然界には未解明の生物現象が多く残されている。関連する天然物からは、まだ新しいサイエンスが出てくる」と、自然界の有機化合物に関する研究の可能性を示唆しました。

祖父江教授の受賞は、「神経変性疾患の病態抑止治療研究」で、神経変性疾患の発症の仕組みを分子レベルで解明し、がん治療などに使われる薬剤が病気を抑え、分子標的治療への展望を示したことによるものです。特に神経変性疾患の一種、球脊髄性筋萎縮症では、臨床治験を実施しています。受賞に際し、同教授は、「神経変性疾患の病態を抑止する治療薬が、患者さんの症状を改善する助けとなることを信じ、今後も研究と治験を行っていきたい」と話しました。

なお、贈呈式は、5月30日(水)、中日パレスで行われました。

岡崎高等学校とスーパーサイエンス教育交流協定を締結

4月26日(木)、本部1号館第2会議室において、愛知県立岡崎高等学校とのスーパーサイエンス教育交流に関する協定を締結し、調印式を挙行了しました。

これは、理学部にスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業に特化した長期研修講座を開設し、同校の生徒の中から、能力・適性・意欲・関心等を総合的に判断して適当と認められた者を、本学の「科目等履修生」として受け入れ、履修した授業科目には単位を認定しようとする

もので、本学が従来から行ってきた同校のSSH事業への協力を一歩進めた形のもので。

大学入学試験において、同校からの合格者は同事業に採択された平成14年以降増加し、特に理系学部 of 合格者が増えています。今回の協定締結により、今まで以上に志望者が増えることが期待されるとともに、中高生の理科離れが進み、我が国の科学技術の将来が懸念されている現在、高校生のうちから大学での授業を集中して体験することにより、

科学に興味を持つ学生が増えたり、学生の独創性、創造性を高める指導方法や大学における取り組みに関する研究が促進されることなどについて大いに期待されます。



あいさつする平野総長



協定書に調印した後、握手を交わす平野総長(左)と石井政一岡崎高等学校長(右)

野依特別教授と李名誉博士を高等研究院名誉院長に任命

4月23日(月)、野依記念物質科学研究館において、野依良治本学特別教授(理化学研究所理事長)に、4月25日(水)、台湾中央研究院において、李遠哲本学名誉博士(台湾中央研究院名誉院長)に、平野総長から、それぞれ本学高等研究院名誉院長の任命書が授与されました。

高等研究院名誉院長は、国内外における本学の存在感を高め、高等研究院の活動を一段と充実させることを目的として設けられたものです。

任命書授与後に行われた懇談では、両氏から、本学及び本学高等研究院の発展・充実のために協力したい、など大変心強いお話がありました。

ノーベル化学賞受賞者であり、世界的に著名な両氏より国際的な視点からの助言をいただくことで、本学のさらなる発展が期待されます。



任命書を手にする野依名誉院長(中央左)と平野総長(中央右)



李名誉院長(右)に任命書を手渡す平野総長(左)

台湾 国立政治大学及び国立台湾大学と大学間学術交流協定を締結

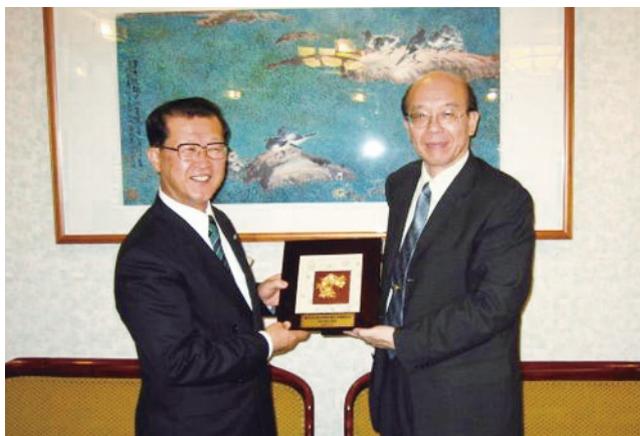
平野総長は、4月24日(火)、台湾 国立政治大学を訪問し、本学と同大学との協力関係をこれまでの部局間協定による法学分野のみならず、より複合的、多元的かつ学際的な分野に一層進展させることを目的に、大学間学術交流協定を締結しました。調印式の後、総長は、呉思華学長をはじめとする同大学の教員と、両校の現状や今後の学生の交流、

学術交流などについて懇談をしました。

引き続き、総長は、台湾 国立台湾大学も訪問し、国立政治大学と同様に大学間学術交流協定を締結しました。調印式の後、李嗣浚学長をはじめとする同大学の教員と懇談をしました。



協定書を手に握手する平野総長（左）と呉国立政治大学学長（右）



李国立台湾大学学長（右）より両校の学術交流協定を記念する盾を受け取る平野総長（左）

安否情報登録訓練を実施

安否情報登録訓練が、4月10日(火)から16日(月)までの1週間、学生、教職員など本学の全構成員を対象に行われました。本学では、災害後にいち早く全構成員の安否確認を行うことを目指し、災害対策室、情報連携統括本部、全学技術センターが協力して、昨年度から「名古屋大学ポータル」を利用した安否確認システムの構築を進めています。

今回の訓練は、学生や教職員にシステムへの登録手順に慣れ親しんでもらうことを主な目的に実施したもので、1週間の登録期間中に2,342名から安否情報の登録がありました。同システムの特徴は、携帯電話から登録できることと、学内で日頃使われている「全学ID」を使用し、個人認証ができることで、今回は、学部学生は登録者の3分の1が携帯電話を使って入力しており、95%を超える人が全学IDを使って登録をしていました。また、訓練に併せて実施したアンケートでは、754名から数多くの建設的な意見があり、これらを参考にしながらシステム改修に着手しています。

いつ発生するかわからない大災害に備えるため、安定して使いやすいシステムの構築を図るとともに、今後も年に2回程度、安否情報登録訓練を繰り返し行うことで、全構成員への定着を図る予定です。

対象は全員です。

地震発生!
まずは身近な人の救助・救命。
そのあと、先輩にも無事を知らせてください。

2007年9月25日 地震発生時刻

安否情報登録訓練
4月10日(火)から16日(月)まで
名大ポータル(<https://my.nyu.jp/k/>)へアクセス

災害後の最優先活動の仲間には、学生、教職員など全構成員の安全確認が欠かせません。その一つの手続きとして「名古屋大学ポータル」に接続した安否確認システムを構築しています。名古屋大学の全構成員は上記の期間内に名古屋大学ポータルへアクセスして自分の安否情報登録してください。

災害対策室
<http://anshin.seis.nagoya-u.ac.jp/taisaku/>
名古屋大学災害対策室 内線6038

全学教養科目「学問の面白さを知る」を開講

蔡 大鵬 高等研究院准教授

高等研究院は、4月から、毎週火曜1限に、経済学部カンファレンスホールにおいて、全学部の1年生を対象とした全学教養科目「学問の面白さを知る」を開講しています。

この講義は、高等研究院教員の研究成果を全学教育に役立てるため、平野総長の強いイニシアティブの下で、教養教育院と共同で企画したものです。本学に入学したばかりの学生が、高等研究院に所属する（あるいはかつて所属した）優れた研究者の講義を受講することにより、学問の面白



講義する安成 哲三地球水循環研究センター教授



講義する福井 康雄理学研究科教授

さや研究に対する心構えを知ることを目的としています。

講義は3つの单元から構成されており、地球、生命、環境、材料から歴史、教育、社会までの幅広い話題について、基礎知識から最先端の内容までわかりやすく紹介し、学問を楽しんでもらうことをねらっています。一年生にバランスよく刺激を与えるように、人文科学、社会科学、自然科学の内容をともに取り入れ、文系・理系分野を問わない講義構成となっています。

講師陣は、講義内容およびプレゼン資料を周到に準備し、学生とのコミュニケーションを重視する姿勢が感じられます。担当教員ごとにさまざまな工夫がなされ、各講義では、各研究分野の紹介的な内容に留まらずに、数々のエピソードを交えながら、実験をさせるなど、工夫が凝らされています。毎回、定員300名を超える受講生が熱心に耳を傾けています。また、受講生からは思わぬ質問も飛び出し、熱心な質疑応答も行われています。

高等研究院は、この講義シリーズを自らの社会発信活動の一環として位置づけており、同講義の専用ホームページ (http://www.iar.nagoya-u.ac.jp/Activities_Programs/IARgakumon.html) を開設しました。ホームページでは、講義を担当する各先生の個人・研究室のページへのリンク、毎回の講義資料、実際の講義風景を収録した音声・映像のファイル、写真などを公開しています。また将来、受講生の声及びレポートも併せて公開することを計画しています。ウェブ上のコンテンツの公開方法など、また見直していかなければならない点も多々ありますが、より良い授業となるよう改善していく予定です。



熱心に講義に耳を傾ける受講生

第1単元「地球、環境と材料」		人間を取り巻く宇宙・地球環境の中で、人間が生存していくためには、それらの環境について深い知識を得るとともに、それらの中から生活に必要な様々な材料を獲得している事を学ぶ。
1	『地球温暖化』はアジアの気候をどう変えるか？	安成 哲三（地球水循環研究センター教授、高等研究院教員）
2	宇宙100の謎	福井 康雄（大学院理学研究科教授、高等研究院教員）
3	結晶と光の世界	関 一彦（大学院理学研究科教授、高等研究院教員）
4	ナノカーボンの科学 ーセレンディピティーからの始まり	篠原 久典（大学院理学研究科教授、高等研究院教員）
5	ヒトとロボットの共生社会	福田 敏男（大学院工学研究科教授、高等研究院教員）
第2単元「歴史、教育と社会」		人間が歴史の中でどのように学び、それをどのようにして後世に伝え、また、どのように現代社会が運営されているのかについて学ぶ。
6	中世ヨーロッパの修道院文化 ー古典はどのようにして現在まで伝えられたかー	佐藤 彰一（大学院文学研究科教授、高等研究院院友）
7	境界を越える歴史教育	近藤 孝弘（大学院教育発達科学研究科准教授、高等研究院教員）
8	アジア諸国に対する法整備支援	鮎京 正訓（大学院法学研究科教授、高等研究院院友）
9	経済学における現代の国際貿易論	多和田 真（大学院経済学研究科教授、高等研究院教員）
第3単元「生命と自然」		人間・動物の命の営みとその自然環境との関わりについて学ぶ。
10	行動から脳のはたらきを知る	森 郁恵（大学院理学研究科教授、高等研究院教員）
11	海洋を化学する	上村 大輔（大学院理学研究科教授、高等研究院教員）
12	時間を刻むたんぱく質分子	石浦 正寛（大学院理学研究科教授、高等研究院院友）
13	動脈硬化は18歳から始まっている	貝淵 弘三（大学院医学研究科教授、高等研究院教員）
14	自然と伝統に学ぶ製品と生活	武田 邦彦（中部大学教授、高等研究院院友）

授業内容一覧（担当教員：奥村 隆平経済学研究科教授、高等研究院副院長）

1975年生まれ、2003年名古屋大学大学院経済学研究科後期課程修了、2005年名古屋大学大学院経済学研究科助手、2006年名古屋大学高等研究院准教授。
全学教養科目「学問の面白さを知る」運営担当。
趣味：読書、映画鑑賞

サイ タイホウ



ステレオタイプの研究視座を乗り越えて

李 正連 大学院教育発達科学研究科准教授

私の専門は「社会教育（生涯教育）学」、特に韓国の近代社会教育史です。「社会教育」という用語は、19世紀末頃に日本でつくられた言葉であり、後に韓国や中国、台湾などにも伝播され、使われてきた東アジア独特の用語です。社会教育は、学校教育以外の教育を意味しますので、社会教育という概念は学校教育の成立が前提となります。従来の研究では、このような社会教育が韓国に導入されたのは植民地時代であり、その導入の目的は日本が朝鮮民衆を同化させるためであったといわれてきました。

しかし、私が発掘した史料によれば、社会教育は、日本による植民地統治以前にさかのぼります。すなわち、大韓帝国末期の開明派知識人や官僚たちによる近代化の模索の過程で、日本から積極的に導入されたものであることがわかります。

これまで韓国の近代教育、とくに植民地時代の教育に対しては、抑圧と抵抗という二項対立の構図でとらえられてきましたが、民衆独自の社会教育実践の展開をみれば、抑圧と抵抗という構図で

は説明できない部分があります。植民統治が本格化した以後、とりわけ1920年代以後から現われた朝鮮民衆の公立普通学校への就学率の急増現象、そしてそれと連動しながら現われた夜学の設立急増現象等は、単に「抵抗のための民族教育」とはいきれない部分があります。資本主義経済体制をともなう近代国民国家形成の過程において、民衆は教育によって統合あるいは啓蒙されるべき対象でもありましたが、一方で、民衆は常に自らの生活向上を志向し、同時にそれを妨げる勢力に抵抗するために、社会教育を利用する教育の主体としても存在していたといえます。

韓国は近代国家を建設しようとしていた時期に日本の植民地になってしまいますが、その中でも韓国の知識人や民衆は常に教育に積極的に関わっていきます。その時、民衆が教育に何を求めており、教育を通していかなる近代化の姿を描いていたのかをより総体的に把握するためには、ステレオタイプの研究視点を乗り越える必要があります。そのために今後も研究を続けていくつもりです。



朝鮮総督府（1999年8月15日に撤去された。）

鶴舞キャンパス・職員ボランティア「花いっぱい同好会」

医学部・医学系研究科事務部経営企画課
山口 正博



活動の様子

鶴舞キャンパスでは昨年10月、来院される患者さまや付き添いの方たちの気持ちがあくせく癒されるようにと、医学部附属病院の立体駐車場南のテラスと玄関前の通路部分に、財団法人共済団の援助と医学部・医学系研究科の職員ボランティア（花いっぱい同好会）により約20基の大型プランターへ季節の花々を植えました。プランターの設置場所の一部が、高層病棟の近くにあるため、特に冬は北からの強いビル風による乾燥などに悩まされながらも花苗の植え付け後の水やり等に注意し丹誠込めた結果、暖冬にも恵まれパンジー・ビオラ・プリムラ・葉ボタン・チューリップ・スイセンがとても元気に育ち、種々の花の色彩により患者さまや職員の目を大いに楽しませてくれました（葉ボタンとビオラの一部は生命農学研究科附

属農場の協力により提供されました）。

また、今年2月には我々職員にとってまことに嬉しいことに、74歳の女性入院患者さまから病院の意見箱へ「感謝の言葉」として、毎朝の院内散歩でこの花の多くの色彩を楽しみ、この患者さまにとって大きな慰めとなったこと、これからも年中花を咲かせて欲しいこと、また植物の手入れを行っている私たち職員への労りのお言葉をいただきました。

この「感謝の言葉」をずっと忘れることなく、花いっぱい同好会の職員たちは、次の真夏の炎天下にも負けないサルビア・ポーチュラカ・ヒマワリなど耐暑性の高い植物選びと植え込みの準備に忙しく、できる限り職員が協力して年中季節の花を咲かせられるようにと願っています。



濱口医学系研究科長を囲んで

やまぐち まさひろ

17. 理学部B館



理学部B館（延べ面積5,969㎡）は、昭和40～41年にかけて建設され、隣接する理学部A館及びC・D館とともに理学部の教育研究施設として長年使用されてきましたが、建設後40年以上経過し老朽化が著しく、教育研究に支障をきたしていました。

また、建物の構造耐震指標である I_s 値が0.21と低く、耐震性能にも問題のある建物でした。

そこで平成18年度、耐震補強工事を含めた内外装の全面改修工事を実施しました。これは、国立学校施設緊急整備5か年計画の整備方針の一つである「老朽化した施設の改善整備」事業として位

置付けられたものです。

改修にあたっては、本学の学術憲章及びアカデミックプランに掲げる「研究と教育の基本目標」に従い、教育研究環境改善と耐震補強を実施し、分散した実験研究室等を各専攻ごとに移行・集約配置すると共に、弾力的・流動的に利用できる全学共同利用スペースを建物面積の20%確保しました。また、研究科や専攻の共用スペース、学生や研究者の交流ラウンジも併せて整備し、施設の効率的・流動的利用を促進できるような平面計画としました。

全学共同利用スペースは、学内公募により選定



された既存の枠を超えた創造的な教育研究活動を行うことを目的とした研究チームに対し、利用規程に基づき、一定期間有償で貸与することとなっています。

耐震補強方法は、内部耐震壁の増設、及び外壁面には外付鋼板内蔵コンクリートブレースによる補強方法を選択しています。

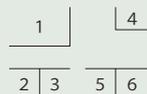
外付鋼板内蔵コンクリートブレース工法は、他の耐震補強工法に比べ1構面あたりの耐力が高く、補強箇所を少なくできるとともに、外壁と同じ仕上げが可能であるため、外観上の違和感を抑えながら耐震性を確保できる工法といわれています。窓の外側にできる耐震補強ブレースを少なくし、眺望や採光など室内環境への影響をできるだけ減らしています。

キャンパスの主要動線に面する建物北側の外観は、設備バルコニーの目隠しを兼ねたタイル張り成型板の縦ラインとアルミルーバーによる横ラインで構成したデザインとして、キャンパス内の改修済み建物と調和を図っています。

また、便所・階段等を中心に納める建物北西側コーナー部は、他の部分より階数が1層高いことを利用し、タイルの色を変えかつルーバーを再生木とすることで他の部分との違いを出し、単調になりがちな建物のアクセントとしています。

理学部A館との接点であり、建物の玄関となる南西側については、A館からの動線上に大型の庇を設けることで、建物への入口を南側1か所に集約しています。

また、玄関ではスロープ及び自動扉の設置、建



- 1 改修後の北西外観
- 2 改修前の北西外観
- 3 南側デッキ
- 4 北側設備バルコニー
- 5 南西側玄関
- 6 耐震ブレース

物内部では多目的便所及びエレベータの設置など、バリアフリーに対応しています。

建物内部については、1階と5階に交流ラウンジを設けるとともに、1階のラウンジに面した外部にデッキスペースを設け、アメニティを高めています。

省エネ対策としては、複層ガラスの採用、外壁面へ通常の2倍の断熱材吹付け等を採用し、空調の熱負荷を軽減しています。

今後、残る理学部C・D館についても順次整備を行っていく予定です。

建物概要

構 造	鉄筋コンクリート造
階 数	地上5階建て
建築面積	1,351㎡
延べ面積	5,969㎡

(施設管理部)



工学研究科結晶材料工学専攻30周年記念講演会を開催

大学院工学研究科は、4月21日(土)、IB電子情報館大講義室において、昭和52年4月に「化学と物理の融合」をキーワードとし、本学工学研究科初の複合専攻として誕生した結晶材料工学専攻の開設30周年を記念した講演会を、卒業生、教職員、在学生など約150名の参加を得て開催しました。

最初に、小野木工学研究科長から、全国に先駆けて領域横断型専攻を形にしたことの意義について紹介があり、続いて、石橋善弘本学名誉教授から、同専攻の創設の経緯等

について話がありました。さらに、各方面で活躍されているOBである西野洋一名古屋工業大学教授、濱川 聡産業技術総合研究所チーム長、中村大輔豊田中央研究所研究員の講演があり、最後に、今年4月に設置された小型シンクロトロン光研究センターについて、竹田同センター長から紹介がありました。講演会終了後に行われた記念パーティーでは、平野総長の祝辞や出席した名誉教授からの懐かしい話が披露され、これまでの成果を顧みると同時に、真価が問われる時期にあることを改めて実感する機会となりました。



記念パーティー参加者による集合写真



創設経緯を紹介する石橋名誉教授

「動物ふれあいコース in 名倉」を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科附属山地畜産実験実習施設は、5月3日(木)から5日(土)までの3日間、地域振興のイベント「名倉高原アートフェスティバル」と協同し、施設開放企画「動物ふれあいコース in 名倉」を開催しました。

開催期間中は、天候に恵まれ、来場者数は延べ84組281名にのぼりました。来場者は、放牧された4月中旬に生ま

れたばかりの子ヤギや親ヤギの行動を間近で見学・観察したり、牛やヤギに草を与える体験をしました。子ヤギに触れた子ども達は、毛の白さや仕草に「かわいいね」と嬉しそうに話したり、子ヤギのお腹の下に残っている乾いたへその緒を見て、興味深げに職員に質問したりと、好奇心いっぱいの様子でした。一般の方からは、飼育家畜の特徴や飼育技術や、当施設での教育・研究活動についての質問が多くあり、地域の方々に同施設での活動を紹介するよい機会にもなりました。また、見学以外にも、学生の研究活動において描かれた動物画、写真、実測図等の展示も行われました。

同施設では、施設開放企画として、同様のイベントを年に数回開催しており、多くの来場者から好評をいただいています。



子ヤギと触れあう来場者

博物館が「ボタニカルアート講座」を開講

博物館は、4月7日(土)から28日(土)の毎土曜日に、「ボタニカルアート講座」を開講しました。定員20名のところ、160名以上の応募があり、抽選の結果、27名が参加しました。

ボタニカルアートとは、もともと写真のない時代に、植物学者の依頼により画家が描いた植物細密画で、主に図鑑などに掲載するために描かれていました。現在では、その

芸術的な価値も高く評価され、額に入れられて飾られることが多いです。

講座では、講師である東海林富子氏の指導のもと、小学生から60歳代の方まで幅広い年代の参加者が、真剣に作品制作に取り組み、同じ被写体を描いたにもかかわらず、個々人の個性溢れる素晴らしい作品が出来上がりました。また、

西川同館長による講演や野外観察園の見学なども講座の一環として行われました。

なお、5月29日(火)から6月10日(日)まで、同館において、同講座の参加者による作品展が催され、来館者の目を楽しませていました。



参加者を指導する東海林氏



参加者による作品

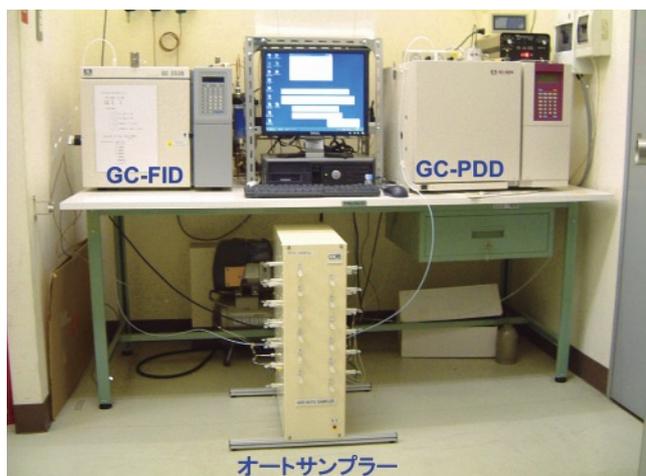
実験室の環境を改善し研究者の健康を守る

研究室における安全性の確保は、大学における研究活動の根幹といえます。労働安全衛生法は、三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）により、職場における労働者の安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境の形成を促進することを目的としています。本学では、教育・研究の遂行のために多種多様な化学物質が使用されており、その中には、健康に悪影響を与えるものも少なくないため、化学物質による健康障害を未然に防止することが非常に重要となります。

作業環境測定は、作業環境中の有害物質の濃度やその分布を測定することで、作業環境（実験室）中に有害物質がどの程度存在し、その実験室で研究者が有害物質にどの程度暴露しているかを把握することを目的としています。具体的には、有機溶剤中毒予防規則及び特定化学物質等障害予防規則で定められた化学物質を使用する実験室では、6ヶ月に1度作業環境測定を行うことが、法律で義務付けられています。

実際の作業環境測定は、①事前調査、②デザイン、③サンプリング、④測定、⑤評価、という手順で行います。

- ①事前調査：実験室における使用化学物質の種類や量などを調査し、デザイン及びサンプリングの日程を決定します。
- ②デザイン：実験室のレイアウト、有害物質の発生源などを考慮し、試料のサンプリング場所を決定します。



有機溶剤自動分析システム



デザインの実施

③サンプリング：物質ごとに定められた方法で試料を採取します。1実験室あたり5箇所以上を、1時間以上かけて行うことが定められています。

④分析：物質ごとに定められた方法により、有害物質の空气中濃度を測定します。

⑤評価：得られた分析結果を統計的に解析し、実験室の管理状況を評価します。

このうち②～⑤は作業環境測定士が行う必要があり、特に④の測定の実施には第1種作業環境測定士の資格が必要です。

本学では、実験室の作業環境管理を効率的に行うために、作業環境測定を学内実施する方針を採っています。現在、環境安全衛生管理室を中心に、作業環境測定の学内実施体制の確立を目指しており、ドラフトチャンバー、パルス放電光イオン化検出器付きガスクロマトグラフ（GC-PDD）及びオートサンプラーを導入しました。平成19年5月現在、6名の作業環境測定士（第1種5名と第2種1名）が作業環境測定の実施に携わっています。

平成18年度は、大学院工学研究科及びエコトピア科学研究所の約90室の作業環境測定を実施しました。測定に用いた有機溶剤自動分析システムは、水素炎イオン化検出器付きガスクロマトグラフ（GC-FID）、GC-PDD及びオートサンプラーから構成されており、ほとんどの有機溶剤の直接分析が可能です。測定結果から、ほとんどの実験室の作業環境は適切に管理されていましたが、いくつかの実験室において作業環境の改善が必要であることがわかりました。

今後、作業環境測定の学内実施を大学院工学研究科以外にも拡張するためには、化学実験を行う構成員の作業環境管理への理解と協力が不可欠です。将来的には、法律を遵守するだけでなく、大学独自の管理基準・管理方法、教育体制を定め、社会の模範となる環境安全衛生管理を実践することが、大学の社会的責任として非常に重要であると考えられます。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
1 春姫道中：春姫役（東茉依子さん・本学学生）が「御殿はどこじゃ」と叫び、名古屋市長に本丸御殿早期復元をアピール	4.16（月）	中日（朝刊） 読売
2 スガウエザリング技術振興財団の今年度の研究助成先に掘勝・工学研究科教授「リモートプラズマ試験機内でのラジカル絶対密度測定」が選ばれる	4.16（月）	日刊工業
3 三重県亀山市での地震について：福和伸夫・工学研究科教授「この程度の地震で被害が出たことは、防災対策を強化する必要がある。」と語る	4.16（月）	読売
4 三重県亀山市での地震について：安藤雅孝・本学名誉教授「地震の規模が小さくとも、浅い震源の直下だとゆれが大きくなることもある。」、鷺谷威・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター准教授「地震観測網の薄いところだったので、あらたに地震計を設置して余震の観測を続けたい。」と語る	4.16（月）	中日（朝刊）
5 三重県亀山市での地震について：鈴木康弘・環境学研究所附属地震火山・防災研究センター教授「今回の地震はもっと大きな地震が起こりうる場所でおこった小さな地震だ。」と指摘	4.16（月）	朝日（朝刊）
6 大学の受験生と定員が同数になる「全入時代」を向かえて：本学などへの難関大志向が高まっている	4.16（月）	中日（朝刊）
7 「サイエンスカフェ」東京日本橋三井タワーで16日開催：「地震予知」のテーマで山岡耕春・環境学研究所教授が講師を務める	4.17（火）	日刊工業
8 全国学力テストについて：中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授「学力の保障という学校本来の課題が学力テストでの得点競争へと置き換わり、排他的競争意識をおおることになる。」と指摘	4.17（火）	中日（朝刊）
9 林能成・環境学研究所附属地震・火山防災研究センター助教と安藤雅孝・本学名誉教授は、地震のデータ収集のために三重県亀山市で調査を行う	4.17（火）	朝日（朝刊）
10 田所敬一・環境学研究所附属地震・火山防災研究センター准教授らは、津市内の震源近くに地震計を設置した	4.16（月） 4.17（火）	朝日（夕刊） 読売
11 本学とドイツフライブルク大の研究セミナー：土井康裕さん・経済学研究科院生「若手研究者同士が互いの研究を報告し合い多めに盛り上がった。今後も高度な議論ができる研究をすすめるよう努力したい。」と語る	4.17（火）	中日（朝刊）
12 在宅血液透析研究会：前田憲志・本学名誉教授が患者対象の調査結果を報告し、「在宅血液透析のさらなる普及を目指したい。」と述べる	4.17（火）	読売
13 時日記：高田浩司氏・本学卒業生 大切なのは「思いやりの心」	4.17（火）	中日（朝刊）
14 本学附属博物館企画展：「地球は玉手箱～誕生石の魅力～」	4.17（火）	中日（夕刊）
15 名古屋支部陸上競技決勝大会：400メートル障害 1位 牧祐輝さん・本学学生	4.17（火）	朝日（夕刊）
16 本学とトヨタ自動車グループのアイシン精機他の研究チーム 自動車の複数の機能をまとめて管理する基本ソフトを開発	4.18（水）	中日（朝刊）
17 文科省の国際的な産学官連携支援体制整備に採択されている本学 海外ベンチャーとの共同研究促進が特色	4.18（水）	日刊工業
18 あしなが募金21日から：募金事務局次長の宮本尚一郎さん・本学学生は、「同じ境遇の仲間を一人でも助けたい。」と協力を呼び掛ける	4.19（木）	中日（朝刊）
19 本学ギターマンドリンクラブ・東北大学友会マンドリン楽部 春の合同演奏会が開催	4.19（木）	中日（朝刊）
20 本学が始めた次世代のスター研究者育成事業のメンバー：五島剛太・特任准教授 研究テーマは細胞分裂	4.19（木）	中日（夕刊）
21 文科省 産学官連携コーディネーターを本学にも配置	4.20（金）	日刊工業
22 本学を含む4校の国立大学が温暖化研究を連携して行う	4.20（金）	朝日（朝刊）
23 中日文化センター特別講座：『『個人ってなにが違うの？』—ここまで進んだDNA鑑定』と題して本敏允・医学系研究科准教授が講演	4.20（金）	中日（夕刊）
24 外資買収身構える企業 中東正文・法学研究科教授に聞く：株主を意識した経営を	4.21（土）	日経（朝刊）
25 ネット掲載公選法の壁について：後房雄・法学研究科教授「公選法は半世紀以上前にできた法律で本来自由でいいはずのことを禁止してしまっている。根本的見直しが必要。」と語る	4.21（土）	中日（朝刊）
26 叙位叙勲：従四位瑞宝中綬章 村岡輝三・本学名誉教授、正四位瑞宝中綬章 村上雄一・本学名誉教授	4.21（土）	中日（朝刊） 読売
27 中日文化センター新講座：「禁断の科学」 総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授が講師を務める	4.22（日） 4.24（火）	中日（朝刊） 中日（夕刊）
28 丹羽公雄・理学研究科教授の研究室の「原子核乾板」という特殊なフィルムを使い、東京大学地震研究所のグループは、空から降り注ぐミュー粒子を用いて建物の耐震偽装を見破る実験を開始	4.23（月）	日刊工業
29 名大サロンの主役 大島隆義・理学研究科教授 未知の素粒子を探る	4.24（火）	中日（朝刊）
30 本学 04年度「21世紀COEプログラム」採択分の中間発表結果で最高評価を得る	4.24（火）	日経（朝刊） 日刊工業
31 本学 工学分野で創造性をはぐくむ教育プログラムに力を注いでいる	4.24（火）	日刊工業

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
32 時日記：高田浩史氏・本学卒業生 4年間の経験 必ずや力に	4.24 (火)	中日 (朝刊)
33 学生街ダンス：佐野文香さん・本学学生 企業探検 中小企業を見直す	4.24 (火)	中日 (朝刊)
34 名古屋ユニバーシティカップ弓道競技：団体3位 本学医学部	4.24 (火)	朝日 (夕刊)
35 国枝秀世・理学研究科教授、中部大学の研究グループは、硬X線を反射する大型金型を開発	4.25 (水)	中日 (朝刊) 日刊工業
36 本学出身の研究者が設立したベンチャー企業「ドクターアクア」：超純粋を使った化粧水と乳液を開発	4.25 (水)	日経 (朝刊)
37 中世史研究会4月定例会：池田文明さん・本学大学院生が「五山の施餓鬼と室町幕府」について報告する	4.25 (水)	中日 (夕刊)
38 老年学：愛知淑徳大学教授・井口昭久・本学名誉教授 運動する習慣、老化防止	4.25 (水)	朝日 (朝刊)
39 本学と東大グループ 丹羽公雄・理学研究科教授の研究室が開発した「原子核乾板」を使用し、ミュオン粒子を分析し火山の火口を透かして撮影することに成功	4.26 (木) 5. 3 (木)	中日 (夕刊) 日刊工業
40 本学 名古屋市職員互助会より故加藤唐九郎氏の陶壁を寄贈される	4.27 (金)	中日 (朝刊)
41 本学と愛知県立岡崎高校 履修協定を締結	4.27 (金) 4.28 (土)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
42 杉浦昌弘・本学名誉教授が「みどりの学術賞」を受賞	4.27 (金)	中日 (朝刊) 他3社
43 藤本豊士・医学系研究科教授の研究グループは、瞬間凍結した細胞の脂肪膜中でガングリオシドがクラスターを形成していることを確認	4.27 (金)	日刊工業
44 文科省の今年度科研費配分 本学 新規採択分における上位採択校に	4.27 (金)	日刊工業
45 長い歴史を誇る名古屋の4大学のオーケストラが5月に定期演奏会：本学交響楽団 (54年創立) も演奏	4.27 (金)	朝日 (夕刊)
46 春の褒章：紫綬 福井康雄・理学研究科教授 宇宙の真理を探る情熱を語る	4.28 (土) 4.29 (日)	中日 (夕刊) 毎日 (朝刊) 読売 中日 (朝刊)
47 「戦争と平和の資料館」4日開館：14年越し市民手作り 運営は「NPO 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 (理事長：森島昭夫・本学名誉教授)」が担当	4.28 (土) 5. 5 (土)	朝日 (夕刊) 毎日 (朝刊)
48 春の褒章：「紫綬」福井康雄・理学研究科教授 春の叙勲：「瑞宝重光章」飛田武幸・本学名誉教授 「瑞宝中綬章」島津康男・本学名誉教授 「瑞宝双光章」堀高夫・本学名誉教授、松岡理・本学名誉教授、山本幸男・本学名誉教授、早川紀和・元医学部附属病院放射線部副診療放射線技術師長 「瑞宝単光章」飛田武幸・本学名誉教授、佐竹健吾・元工学部事務部長、田口昭子・医学系研究科附属病院看護部看護師長 「旭日中綬章」横文彦・建築家 (豊田講堂設計者)	4.28 (土) 4.29 (日) 4.30 (月)	読売 中日 (朝刊) 日刊工業
49 「中高年の息切れ 身近な肺の病気」25日開催：下方薫・医学系研究科教授が座長を務める	4.29 (日)	中日 (朝刊)
50 中日新聞を読んで：中西久枝・国際開発研究科教授 歴史知る報道の大切さ	4.29 (日)	中日 (朝刊)
51 東海スポーツ アーチェリー東海学生王座出場校決定戦：本学男子2位 全日本学生王座決定戦に出場が決まる	4.30 (月)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
52 西日本の地震活動の活発化と南海地震との関連について：安藤雅孝・本学名誉教授 「慎重な調査が必要だ。」と語る	4.30 (月)	日経 (朝刊)
53 応用物理学会の「リフレッシュ理科教室」が07年度の文部科学大臣表彰 (科学技術賞) を受ける：高井吉明・工学研究科教授 「参加する子どもの目は輝いている。」と語る	4.30 (月)	中日 (朝刊)
54 身近な活断層：田所敬一・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター准教授 濃尾断層 100年を越え今も残っている6メートルの壁	5. 1 (火)	中日 (朝刊)
55 河本邦仁・工学研究科教授、片桐清文・工学研究科助教、中村雅人さん・本学大学院生は、マグネタイトのナノ粒子を集合させてできた中空マイクロカプセルを作製	5. 1 (火)	日刊工業
56 公務員遵守義務宣誓文の「いま」：本学 独立行政法人に移行した04年4月の新規採用職員から「宣誓」を廃止している	5. 1 (火)	朝日 (朝刊)
57 医療危機：相馬孝博・医学系研究科准教授は「医師の過重業務が安全をおびやかしている。」と訴える	5. 1 (火)	朝日 (朝刊)
58 時日記：高田浩史氏・本学卒業生 激励、応援ありがとう	5. 1 (火)	中日 (朝刊)
59 世界見て歩き：丹羽亜衣さん・本学大学院生 中国 自分の学問に情熱	5. 1 (火)	中日 (朝刊)
60 第60回中日文化賞受賞者：上村大輔・理学研究科教授「海洋天然物の生物有機化学的研究」 祖父江元・医学系研究科教授「神経変性疾患の病態抑制治療研究」	5. 3 (木)	中日 (朝刊)
61 風向計：家森信善・経済学研究科教授 中小企業金融の見直しを	5. 3 (木)	読売

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年4月16日～5月15日]

記事	月日	新聞等名
62 ヤン・イージン・本学特任助手と名城大の鍋島俊隆教授他 マウス使った実験で覚せい剤依存症に特定の遺伝子が関係していることを発見	5. 3 (木)	朝日 (朝刊)
63 小松由紀夫・環境医学研究所教授のグループ 脳の情報伝達は、無駄な段階を省略して素早く伝わっていく仕組みを発見	5. 4 (金)	朝日 (朝刊)
64 大岡昌博・情報科学研究科准教授他 ロボットの手で物を優しくつかむ触覚センサーを開発	5. 4 (金)	日経 (朝刊)
65 相山人間学研究センター客員教員・杉浦昌弘・本学名誉教授が「第1回みどりの学術賞」を受賞	5. 4 (金) 5. 8 (火)	毎日 (朝刊) 中日 (朝刊)
66 在宅医療：植村真美・医学系研究科附属病院看護師長 実の父の在宅医療 「こんなに重いものを背負うのかと実感した。」と語る	5. 4 (金)	中日 (朝刊)
67 医学系研究科附属病院肺ガン手術実績：手術件数100件 胸腔鏡手術の件数2件 5年生存率89件 手術日から入院日数12日	5. 6 (日)	読売
68 名古屋手紙の会5月定例会：塩村耕・文学研究科教授が講師を務める	5. 7 (月)	中日 (夕刊)
69 一色「九条の会」結成のつどい：中野藤生・本学名誉教授が「平和を語る―九条の意義」と題して講演	5. 8 (火)	中日 (朝刊)
70 劇団四季「アイダ」公演を前に俳優に取材：岩田優子さん・本学学生	5. 8 (火)	中日 (朝刊)
71 「第1回学習と交流のつどい」：中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授が『全国学力テスト』実施について思う事」と題して講演	5. 9 (水)	中日 (朝刊)
72 時のおもりの：総合研究大学院大学教授・池内了・本学名誉教授 経済は規制緩和、政治は規制強化 大企業優遇と従順な国民づくり	5. 9 (水)	中日 (朝刊)
73 視覚文化研究のいま：茂登山清文・情報科学研究科准教授 「見る・見せる」知模索する場に	5.10 (木)	朝日 (夕刊)
74 宮田隆司・工学研究科教授 「金属疲労を目視などで異常を発見する日常的な検査はなかなか難しい。」と述べる	5.11 (金)	朝日 (朝刊)
75 「いずみの会」総会：本秀紀・法学研究科教授が「なぜ現憲法が大切か」と題して講演	5.11 (金)	朝日 (朝刊)
76 本学理学部自治会執行委員会がキャンパスで国民投票の強行採決ストップを訴える	5.11 (金)	中日 (朝刊)
77 公開講演会：「脳がつくる心のいとなみ―小さな生き物から知る生命のからくり」と題して森郁恵・理学研究科教授が講演	5.12 (土)	中日 (朝刊)
78 「シンポジウム がんの早期発見・早期治療に向けて～消化器がん検診と内視鏡検査・治療の最前線～ in 名古屋」：後藤秀実・医学系研究科教授がメタボリックシンドロームと内視鏡の技術革新について講演	5.13 (日)	読売
79 堀勝・工学研究科教授と片桐エンジニアリング 半導体基板表面などの微細加工する装置を開発	5.14 (月)	日刊工業
80 東海学生対校選手権：5000メートル1位 中村高洋さん・本学学生	5.14 (月)	朝日 (朝刊)
81 名大サロンの主役：西沢泰彦・環境学研究科准教授 満鉄、地球規模の視点	5.15 (火)	中日 (朝刊)
82 国民投票法について：愛敬浩二・法学研究科教授「4年後に国民は改憲案への判断を迫られる可能性があるが、その時なぜ自民党が明文改憲をしようとしているのかの意図を国民は見極めることが必要になる。」と語る	5.15 (火)	朝日 (朝刊)
83 国民投票法について：本秀紀・国際開発研究科教授「憲法を教える上で、変えることを説明すればどうしても現行憲法を否定的に教えることになる。」と語る	5.15 (火)	中日 (朝刊)
84 中日健康セミナー「軽視していませんかドライアイ」：杉田二郎・医学系研究科附属病院助教がセミナーに出席	5.15 (火)	中日 (朝刊)
85 エコトピア科学研究所と住友電気工業 希少資源再利用する技術を開発	5.15 (火)	朝日 (朝刊) 日刊工業
86 「職場復帰準備セミナー」が6月7・8日開催：村瀬聡美・医学系研究科附属病院教授が、母親が働くことがどのように子どもへ影響するかについて講演	5.15 (火)	中日 (朝刊)
87 数理ウェブ：多元数理科学研究科が「コンピューターで見る複素関数」、大沢健夫・多元数理科学研究科・教授が「iは地球を救うか(その6)…角の幾何学」と題して講演	5.15 (火)	中日 (朝刊)
88 なごや環境大学共育講座「地震…五感で学ぶ親子防災教室」：本学環境総合館4階にて開催	5.15 (火)	中日 (朝刊)
89 学生街ダンス：祖父江恵氏・本学卒業生 研修医目指すは最前線 ER	5.15 (火)	中日 (朝刊)
90 学生辞典：「お おやつじゃんけん 高木賢治さん・本学大学院生	5.15 (火)	読売
91 医学系研究科老年情報学寄付講座が20日に開催：「家計と認知症」、「支えが必要となる時」、「権利擁護と成年後見」、「権利と財産擁護～金融企業が支えられること」の3講演	5.15 (火)	日経 (夕刊)

第11回名古屋大学博物館企画展 「地球は玉手箱—誕生石の魅力—」

博物館では、4月10日(火)から7月21日(土)まで、第11回企画展「地球は玉手箱—誕生石の魅力—」を開催します。これまで同館では「誕生石コーナー」を設け、1ヶ月毎に誕生石を紹介していましたが、同企画展開催中は、誕生石の原石と関連鉱物を一堂に集めて展示し、鉱物の多様性、色や形の秘密、鉱物と母岩との関係、生成環境、化学組成、資源的意義等を詳しく紹介しています。

同企画展は、①地球に存在する4,000種という鉱物の多様性は、生物の多様性と同一ように地球に水が存在し様々な環境があることを反映している、②企画展のタイトル「地球は玉手箱」を“Artist Earth”と英訳しているように、“芸術家”としての地球がつくる鉱物の様々な色や形を実物標本から感じてほしい、という2点を基本スタンスに開催しており、十字石、電気石、忍石などとともに、鉱物の色や形にまつわる話をパネルやチラシで解説しています。「十字石がきれいな十字架の形になる鉱物学的な特徴とともに、十字軍の兵士がこの石をお守りとして身につけて戦争に出かけたこと」などの鉱物に関する話は、人類が約600

万年前に出現して以来、自然の中で動植物とともに鉱物・岩石と深い関わりをもって暮らしてきた結果、つまり鉱物との長い“つきあい”に由来しており、中国では、完璧や玉石混淆などの漢字熟語が生まれました。

同企画展は、本学教育学部附属高等学校のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）関連の授業や全学共通教育の一環としても利用されています。

また、同企画展開催中に、関連特別講演会を行っています。4月27日(金)、水谷伸治郎本学名誉教授が、『シリカ鉱物から地球史を読む』と題し、シリカ鉱物の代表として石英を取り上げ、石英の殻や骨格を持った放散虫について、理学部で行われたジュラ紀の放散虫化石を中心に、分かりやすく解説しました。講演後には数多くの質問があり、その一つに、「今日の話で地学が地球にとって非常に大切な学問だということがよく分かったが、高校ではなぜ地学を教えないのか、外国でもそうなのか」と、我が国の理科教育についての素朴で鋭い疑問、意見が出されました。



十字石



講義する水谷名誉教授



高校生に説明する足立前博物館長



講義する星野教授

5月12日(土)には、日本応用地質学会中部支部との共催で、星野光雄環境学研究科教授が『名古屋大学によるアフリカ大陸の地質調査研究 1962～2006』と題し、アフリカ大陸の植民地支配の歴史からアフリカ大地溝帯の研究史、最近の砂漠化関連まで様々な話題を交えながら、1962年以来45年間にわたる本学のアフリカ研究史を詳しく解説しました。さらに、星野教授自身が携わったセーシェル諸島における花崗岩の古地磁気学的成果や、ケニアのビクトリア湖北東部で深刻化しているガリ浸食についての解析結果も披露されました。講演後には、アフリカ大陸の資源や地震活動、人類誕生と大地溝帯の関係等のほか、応用地質学と関連の深いガリ浸食について、活発な意見交換が行われました。

両講演とも、会場は約60名の熱心な聴衆でいっぱいになりました。

なお、今後の企画展関連の特別講演会は以下のとおりです。

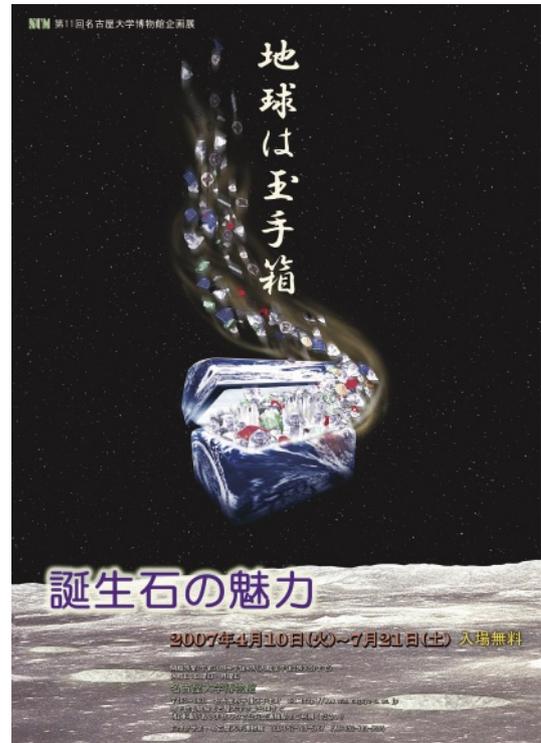
6月30日(土)午後3時より 『新鉱物発見物語』

講師：松原 聡国立科学博物館地質研究部長

7月14日(土)午後2時より 『鉱物の見方・調べ方』

講師：坂野靖行産業技術総合研究所主任研究員

※講演後、岩石・鉱物の鑑定会を予定



主 催：名古屋大学博物館
 期 間：2007年4月10日～7月21日 日・月曜日休館
 場 所：博物館展示室（特別講演会は、博物館講義室）
 時 間：10時～16時（入館は15時30分まで）
 入 場 料：無料
 問い合わせ先：博物館事務室 052-789-5767

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

5月16日(水)～6月27日(水)

場 所：博物館講義室

時 間：10時30分～12時00分

定 員：60名（名古屋市生涯学習推進センターにて申し込み）

入 場 料：無料

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

大学連携キャンパス講座「おもしろ博物館」(全7回)

内 容：博物館専任教員7名によるリレー形式での講義

講 演 者：西川輝昭（博物館教授）他

主 催：名古屋市生涯学習推進センター

6月4日(月)～22日(金)

場 所：中央図書館4階展示室

時 間：9時30分～17時00分

(土・日とも)

附属図書館2007年春季特別展

「王権と社会 ～朝廷官人・真継家文書の世界～」

[問い合わせ先]

附属図書館庶務掛 052-789-3667



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

6月16日(土)

場 所：野依記念学術交流館
カンファレンスホール
時 間：13時30分～16時00分
定 員：200名(当日先着順)

第13回理学懇話会「超弦理論の数理」

講演題目：「弦と素粒子」
講 演 者：杉本茂樹(理学研究科准教授)
講演題目：「驚きの双対性ー鏡の国のゲンナー」
講 演 者：菅野浩明(多元数理科学研究科教授)

*16時00分～17時00分
「高校生のためのサイエンスカフェ in 名大」
会 費：300円

[問い合わせ先]
理学部庶務掛 052-789-2394



6月23日(土)～7月8日(日)の間の土・日

第56回東海地区国立大学体育大会

[問い合わせ先]
学務部学務企画課 052-789-2164

内 容：東海地区国立8大学の運動部が参加
主 管 校：岐阜大学

6月25日(月)、7月23日(月)

場 所：国際言語文化研究科棟1階
演習室
時 間：16時30分～18時00分
(第8回のみ：18時00分～19時30分)
入 場 料：無料

メディアプロフェッショナル論講座 オープンクラス第6回～第8回

内 容：
第6回 メディアは政策手段たりうるか：その可能性と課題について(6/25)
第7回 危機に立つジャーナリズム(7/23)
第8回 メディアリテラシーと映像コンテンツ制作の実際(7/23)

[問い合わせ先]
国際言語文化研究科
ヘイグエドワード准教授 052-789-4789

6月27日(水)、7月17日(火)

場 所：環境総合館1階
レクチャーホール
時 間：18時00分～19時30分
入 場 料：無料

第30回、第31回防災アカデミー

第30回
講演題目：「液化化の謎に迫るー地盤工学のアプローチー」
講 演 者：浅岡 顕(工学研究科教授)
第31回
講演題目：「復興まちづくりへの挑戦～阪神・淡路大震災の教訓～」
講 演 者：小林郁雄氏(神戸山手大学都市交流学科教授)

[問い合わせ先]
災害対策室 052-788-6038

6月30日(土)、7月14日(土)

場 所：博物館講義室
時 間：15時00分～16時30分(6/30)
14時00分～15時30分(7/14)
入 場 料：無料

第72回、第73回博物館特別講演会

第72回
講演題目：「新鉱物発見物語」
講 演 者：松原 聡氏(国立科学博物館地質部長)
第73回
講演題目：「鉱物の見方・調べ方」
講 演 者：坂野靖行氏(産業技術総合研究所主任研究員)
※講演会終了後、鉱物の鑑定会を予定

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767

6月30日(土)、7月28日(土)

場 所：生命農学研究科附属農場
「農業館」
時 間：14時00分～16時00分
定 員：60名
入 場 料：無料

地域貢献特別支援事業

「都市近郊の農業教育公園・講演会」
テ ー マ：「資源動物を知り、食といのちを考える」(6/30)
講演題目：「24時間牛乳を飲める国」
講 演 者：前多敬一郎(生命農学研究科教授)
テ ー マ：「資源動物を知り、食といのちを考える」(7/28)
講演題目：「魚類に学び魚類との共生を考える」
講 演 者：宗宮弘明(生命農学研究科教授)

[問い合わせ先]
生命農学研究科附属農場 0561-37-0210

開催月日・場所・問い合わせ先等

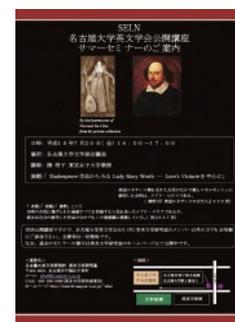
内容

7月20日(金)

場 所：文学部会議室
時 間：16時00分～17時00分
入 場 料：無料

文学研究科英文学会公開講座 サマーセミナー

講演題目：「Shakespeare 作品からみる
Lady Mary Wroth - Love's Victorie を中心に」
講 演 者：楠 明子（東京女子大学教授）



[問い合わせ先]

文学研究科英米文学研究室
eibei@lit.nagoya-u.ac.jp

7月23日(月)

場 所：中央図書館 5階多目的室
時 間：18時00分～19時15分

附属図書館研究開発室第26回オープンレクチャー

講 演 者：前田博子氏（豊田工業高等専門学校講師）

[問い合わせ先]

附属図書館庶務掛 052-789-3667

7月24日(火)

場 所：高等総合研究館 6階
カンファレンスホール
時 間：17時00分～
入 場 料：無料

第16回高等研究院セミナー

[問い合わせ先]

研究協力・国際部研究支援課高等研究院掛
052-788-6051、6153

7月28日(土)、29日(日)

場 所：医学部保健学科
時 間：10時30分～16時10分（7/28）、
10時00分～15時40分（7/29）
受 講 料：6,200円（要事前申込み）

公開講座「健康開発のための運動基礎理論」

[問い合わせ先]

総合保健体育科学センター事務室
052-789-3946

名大トピックス No.169 平成19年6月15日発行

編集・発行／名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町（〒464-8601）

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>) でもご覧いただけます。

表紙

七ツ寺スタジオでの新入生
歓迎公演リハーサルの様子。
（劇団新生）
（平成19年4月6日）



